

学校教育目標	「手をつなごう 笑顔いっぱい 大好き滝小」			
	○手をつなごう 共生・共感・協働・コミュニケーション・国際理解・人権意識 【徳・開】 ○笑顔いっぱい 主体性・意欲・満足感・感謝・健康・持続可能性 【知・体】 ○大好き滝小 帰属意識・地域連携・郷土愛・社会参画 【公】 ○問題意識をもち、自ら進んでねばり強く学び続けることができる力を育てます。(知) ○感謝の気持ちやまわりの人への思いやりをもち、正しく行動できる力を育てます。(徳) ○自らの食生活や生活習慣に関心をもち、健やかな身体をつくろうとする力を育てます。(体) ○地域を大切に、進んで社会の役に立つ行動ができる力を育てます。(公)			
学校概要	創立 95 周年	学校長 金子 郁規	副校長 池長 健吉	2 学期制 一般学級: 18 個別支援学級: 6
	児童生徒数:	570 人	主な関係校: 岡村中学校	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p style="text-align: center;"> <自分づくりに関する力> <心身ともにたくましく生きる力> <持続可能な社会の創造に貢献する力> </p>	岡村中学校 岡村小学校 磯子小学校 滝頭小学校	<p> ○コミュニケーション能力の向上を通して、自分自身を大事にする気持ちや相手を思いやる気持ちのある子ども ○友だちや地域の人たちと積極的な関わりを通して、めあてに向かい、問題解決に粘り強く取り組む子 </p> <p> ・「育てる子ども像」に迫る授業研究会を年2回実施、検証、意見交換。・児童生徒交流事業で小6の中1ギャップ解消。・学校代表が年3回協議会をもち、小中一貫の意見交換と日程調整。・小学校で一部教科担任制による学習指導。・人権教育の推進。・中学校AETによる年3回の小学校での英語指導。 </p>

中期 取組 目標	<p>○「手をつなごう 笑顔いっぱい 大好き滝小」を子ども一人ひとりが実感できるように、活力と魅力にあふれた学校づくりを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様性と共生を大切にして、豊かな人権感覚を育てる教育を推進します。 ・学びの楽しさを実感できる授業づくりを推進します。 ・クラスや学年の枠を越えて、相互に啓発・連携しつつ、全職員で全校の児童を育てる体制づくりを推進します。 ・家庭・地域と連携し、信頼される学校づくりを推進します。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①単元や一単位時間で育成を目指す資質・能力を明確した授業づくりをする。本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れ、子どもが主体的に学習を進められるようにする。 ②重点研究テーマを「意欲をもって主体的に学ぶ子の育成」とし、生活科、総合的な学習の時間を中心に、相手や目的を意識して言葉を選択しながら人と豊かに関わる力を育成する。 ③個に応じた課題を学習する時間を設け、ひとり一人が達成感、自己有用感をもって、取り組めるようにする。
徳 道徳教育	①豊かな心の育成を目指して、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。 ②道徳科年間指導計画に沿った、全学級の道徳科授業公開を年一回以上実施する。 ③自分の思いを書いたり、話したりする活動の中で自分自身を見つめたり、なりたい自分をイメージしたりすることができるようにする。
体 健康教育	①健康教育やいのちの学習を通して、自分の心や体の健康やいのちを大切にすることを養う。 ②給食指導を通じ、バランスのよい食事を摂ることを大切にすることを養う。 ③「のびのびひまわりストレッチ」「滝小スマイル体操」(本校作成)を行い、よい姿勢や体づくりを目指すとともに、けがの予防に努める。 ④外遊びを奨励し、体力(特に持久力)の向上を図る。
公 自分づくり教育	①地域や身近な人・もの・こととのかわかりを各学年やクラスごとに積極的に行い、学習の中で意図的に推進を行っていく。 ②各教科、領域で問題解決的な学習過程を大切に、目標に向かって努力する実践的な態度を養う。 ③タブレット等を有効活用する。
いじめへの対応	①教職員には「いじめ防止対策委員会定例会」で、保護者に対しては、懇談会や学校ホームページなどを通じて、いじめの定義に関する理解を徹底する。 ②日常に潜むいじめについて積極的に認知し、子どもの心情に寄り添うことを徹底する。 ③いじめの根絶に向け、1回以上のアンケートを実施し、未然防止や早期発見、早期解決に取り組む。 ④月に1回以上「いじめ防止対策委員会定例会」を実施し、認知された案件の経過観察や支援方法などについて、職員と情報共有を密に行いながら、丁寧に支援していく。
人材育成・組織運営(働き方)	①学年研や重点研で互いの実践を情報交換し合い、授業・学級経営改善を行う。 ②年に3回程度は、管理職や先輩教師が、メンターチームに積極的に関わる。 ③適材適所・抜擢により広く人材登用を行い、OJTを通して校務への参画意識を高める。 ④業務内容の見直しやタブレット端末用ドリル活用等で、時間外勤務時間を減らしていく。
地域学校協働活動	①学校運営協議会、学校地域協働本部との連携により、地域の施設や団体との交流を推進し、学習材として開発したり、地域防犯パトロールを継続実施したりする。 ②地域の行事にクラブの子どもたちや本校教職員が参加し、地域の方々との交流を深める。 ③年1回以上、見守り隊の方や学校運営協議会の方に授業を参観していただくなど、地域の方に学校の様子を知っていただく機会を積極的につくる。
特別支援教育	①支援を要する児童について、個別の教育支援計画・指導計画を作成し、それに基づいて全ての職員で共通理解を図りながら指導にあたる。 ②個別支援学級の指導の充実を図る。(教室環境や教材・教具の工夫、職員間の連携、啓発) ③学習ルームやステップアップルームなどを活用しながら、子どもたちが安心して教室で過ごせるようになることを目指す。
児童生徒指導	①「滝頭小のやくそく」の徹底に努め、常に現在の社会情勢に沿うものであるかを全体で検討していく。 ②児童指導委員会を中心に、毎月、児童や学年の状況を共通理解する場を設け、改善策の具体を検討する。 ③案件に対して、学年経営・一部教科担任制を行い、個に寄り添った指導体制を進める。 ④Y-Pアセスメント調査と、そこからわかる実態に伴うYP活動を最低年2回は行う。
多文化共生	①「特別的教育課程」を編成し、児童の日本語力に応じた教科指導・支援を実施、評価、改善を行う。 ②日本の学校生活についての理解や協力が得られるよう、保護者の実態や願いに寄り添い、家庭支援を行う。 ③外国につながる児童の国際教室での学習や願いを紹介する活動(ビデオや発達段階に応じた説明)を通して、全校児童が多文化共生について理解を深められるように取り組む。
担当	国際教室担当